

★7 国中央執行委員選挙の4つの争点

全学連統一派

★1の争点

全学連の旗の下、

民主勢力との団結で

6.2 大阪大集会

の成功をなちとるな

6.15 セクト的な「自治会共闘」な？

★1の争点 全学連の旗の下、
民主勢力との団結で6.2大阪大集
会の成功をなちとるな、6.15セク
ト的「自治会共闘」な？

全世界の注目をあびておこなわれている「パリ会談」においては、アメリカは「相互の戦いの縮小」など侵略者と被侵略者、シユネース協定を破壊してきたものと、守ってきたものを不明確にし、北爆の停止というベトナム人民をはじめとする全世界人民の要求を避ける、あくまでも南ベトナム確保のためにやっきになっている。

このようなとき私たちは、今こそベトナム人民支援の斗いと、日本の侵略加担の侵略加担反対の斗いをすすめるなければならない。とりわけ、佐世保の原潜「青港」による放射能汚染にみられるような、日本の侵略加担の具体的なあらわれの一つひとつを粉砕していくことが必要であるし、大阪におけるもっとも集中的、具体的にあらわれである大阪国際空港軍事使用反対の斗いはきわめて重要である。

この斗いにおいて、大阪府学連は大阪の民主勢力の中で最も先進的にとりあげ、4.18をはじめとして斗いぬけてきた。大阪の民主勢力とともに今、6.2大阪大集会を成功させることはきわめて大きい。それは、大阪における具体的課題にもとづく統一行動を強化していく中でも大きいし、大阪府学連はまさにこの統一戦線の一翼を担ってきた。

「統一会議（主流派）」は、大阪における具体的な課題での斗いを放棄している。また、5.14においても（全関西学生統一行動）「課題は支持するが、「自治会共闘」でなければならない」としてセクト的にも統一派中核のよびかけを拒否した。6.2の大阪大集会にしても「課題は支持するが、全面的なとりくみを拒否している。

広範な学生要求にもとづき、すべての大学にたいして加盟をよびかけ、広範な課題で一致した行動を追求している全学連に対し、「課題は支持するが……」といわざるをえなくなっているが、あくまでも自分たちの勢力確保のためセクト的に「自治会共闘」に固執している。しかし、全学連が学生の要求にもとづく斗いを大きく発展させてきたからこそ、再建当時（64年）一・二大自治会から、現在の二〇五自治会、一大の支持自治会へ発展したのではないのでしょうか。いったいセクト的なのはどちらなのだろうか。

今こそ、全学連の旗の下、全民主勢力と団結して、大阪における具体的な課題である大阪国際空港の軍事使用反対の斗いをすすめるようではありませんか。6.2大阪大集会成功のため、市大でも大きな討論をまきおこそうちはありませんか。

ウラに ★二、三、四の争点があります。

※二の争点 希望者全員の入れる新寮 ※二学生ホールなど様々の切実な要求を実現するのはだからか？

私たちは、一貫して学友のすべての要求をとりあげることと主張してきた。65年秋からおこなわれた市予算斗争においてサークルBOX、家政学舎移転を統一派を先頭にして家政学部、若サ協など広範な学友の参加によってみちとった。その後も教養図書室、照明設備の改善、アルバイト開始など様々の要求を実現してきました。全学連は一貫して要求を実現するために、中央大学の授業料値上げ白紙撤回をねばりづよい闘いで実現した。

「統一会議」は、統一派にたいして「諸要求路線」「自治会サービスマニヤ」と非難中傷をおこなってきた。私たちの要求がまだ実現していないのは、このような「統一会議」の態度に問題がある。代議委員会をみても、更にクラスの要求が反映されるようにはなっていない。「統一会議」の主張は三回も「自己批判」をしているが、二回は「統一会議」全体の自己批判に値するものである。学友の要求にもとづいて闘いとすめるならば、どうして「口学同派」と「王派派」に分裂することをおこさるのか。トロツキストは、要求を実現するものでないことは明らかである。

当面のなちとれるべき要求は、学生部長会、学部長団体に学生の要求をつぎつけて実現しよう。新寮を中心とする市予算斗争においては、6月学生大会で学生の要求をまとめ、大学協議会決定をなちと、秋からの市予算斗争をおこなう。

※三の争点 「市大問題」における自民党の攻撃を粉砕し、反動的サークル規約の押しつけに反対し、大学の自治を真に守るかどうか？

現在、大学にたいして自治破壊の攻撃をきわめて露骨にみかけている。京大、東大など官権の回復へや、

自主規制路線の強まりはきわめて激しいものがある。大阪市立大問題もその新たな段階を画するものである。サークル部室にたいする反動的規約がおしつけられようとしている。

私たちは、この反動勢力のねらいを徹底的にバクロし、私たちが団結して反動勢力のねらいをみぬき、闘っていくことが必要である。サークル規定は全国的な自主規制の一環であるため、私たちはこの規約押しつけに反対してきた。

ところが、「統一会議」は、「学生部長に届出る」という項目が多数ある規約にたいして、これを受け入れるような、まったくの自治破壊の受け入れを、「民主的規約」という言葉でおこなっている。

今こそ、自治を守り、発展させる闘いの大きな発展をみちとろう。

※四の争点 全学連の方針にもとづき、正しい自治会活動、学生運動を追求し、全学連に復帰するかどうか？

要求で団結し、要求で闘う自治会活動をもちたてよう。全学連は、要求にもとづき闘い、闘いと学問研究、文化活動を通じて民主的知識人として成長していくという「学生運動の二つの任務」を決め、今、全国の大学で実践を出している。学生の基本的な要求である学問研究の要求を基礎に闘いぬこう。学友の要求を実現するためには、自治会の民主的運営をなちとらなければならぬ。クラス、サークル、ゼミを基礎に闘おう。全学連、国際学連の旗の下に団結し、全学連に復帰をなちとろう。

三派、革マルの分業策動、暴力行為と「全学連」「府学連」をタッチあげを粉砕し、「統一会議」の全学連に敵対し、市大を全学連から孤立させる「自治会共闘」に反対し、全学連に復帰しよう。

全学連の旗の下、要求で団結し、闘う自治会を！